

## 資料 2 胃瘻造設後の管理

### (1) 日常の手入れ

#### ①スキンケア

- ・胃瘻周囲の皮膚は、微温湯と石けんで洗う(胃瘻周囲の消毒は必要ない)。
- ・洗いながら、瘻孔周囲の異常に注意して観察する。
  - 不良肉芽→ステロイド軟膏の塗布、硝酸銀液による処置、外科的切除
  - 栄養剤の漏れに伴う皮膚炎→漏れ防止対策＋皮膚の洗浄・保護
  - カンジダ皮膚炎→栄養剤の漏れや皮膚が常時湿潤しないようにする。
  - 瘻孔感染→抗菌剤投与、生食での局所洗浄、胃瘻使用の中止、疼痛緩和

#### ②シャワー・入浴

- ・シャワーは胃瘻造設後 1 週間を目安に開始する。
- ・入浴は瘻孔周囲の感染がなければ 2 週間後を目安に開始する。
- ・胃瘻部を保護するなど特別な処置は必要ない。
- ・胃瘻周囲の皮膚を石けんでよく洗う。
- ・入浴後は乾いたタオルで水分を拭き取り、自然乾燥させる。

#### ③カテーテルのケア

- ・カテーテルの向きは毎日少しずつ変え、皮膚に接触する部位をずらす。

### (2) 口腔ケア

- ・ブラッシング・・・ワンタフトブラシを使用して細部まで丁寧に歯磨きをする。
- ・舌の清掃・・・分厚く肥厚した舌苔を舌クリーナーなどで軽くこすり除去する。
- ・入れ歯の清掃・・・義歯ブラシを洗浄液によりクリーニングする。
- ・口腔洗浄・・・シリンジと吸引装置を使用。
- ・口腔清掃・・・スポンジブラシを使用。
- ・歯科衛生士による専門的口腔ケア

### (1) カテーテルの交換時期

- ・バンパー型・・・4～6 ヶ月が目安。
  - 初回は内視鏡下での交換が望ましい。
  - 2 回目以降は経皮的でも可能である(ただし、施設の経験・方針による)。
- ・バルーン型・・・1～2 ヶ月が目安。カテーテルに問題が生ずれば随時交換する。
  - 初回は内視鏡下での交換が望ましい。
  - 2 回目以降は経皮的に交換可能(瘻孔損傷のないよう注意を要する)。

胃瘻造設日		病院名	メーカー	キットの型名	次回 交換予定日
		医師名	製品名	サイズ	
年	月 日			バンパー型・バルーン型	年 月 日
				長さ cm・太さ cm/Fr	
交換日					
1	年 月 日			バルーン型・バンパー型	年 月 日
				長さ cm・太さ cm/Fr	
2	年 月 日			バルーン型・バンパー型	年 月 日
				長さ cm・太さ cm/Fr	
3	年 月 日			バルーン型・バンパー型	年 月 日
				長さ cm・太さ cm/Fr	
4	年 月 日			バルーン型・バンパー型	年 月 日
				長さ cm・太さ cm/Fr	
5	年 月 日			バルーン型・バンパー型	年 月 日
				長さ cm・太さ cm/Fr	

(2) 嚥下評価

- NST ( )、次回相談日( )  
ケアマネジャー( )、次回相談日( )  
主治医 ( )、次回受診日( )

固形物

半固形物

液体



\* 1 男性:  $66.5 + 13.7W + 5H - 6.7A$     女性:  $655.1 + 9.6W + 1.8H - 4.7A$   
W: 体重(kg)    H: 身長(cm)    A: 年齢

\* 2  $TEE = BEE \times \text{活動係数} \times \text{損傷係数}$  (主要なもの 1 つ)

活動係数    ベッド上臥床 → 1.0    起床生活 → 1.2

損傷係数    手術: (術後 3 日まで)

1.2 → 胆嚢・総胆管切除、乳房切除

1.4 → 胃垂全摘、大腸切除

1.6 → 胃全摘、胆管切除

1.8 → 臍頭十二指腸切除、肝切除、食道切除

臓器障害: 1.2 + 1 臓器につき 0.2 ずつ up (4 臓器以上は 2.0)

熱傷: 熱傷範囲 10% 毎に 0.2 ずつ up (Max 2.0)

体温: 1.0°C 上昇 → 0.2 ずつ up

(37°C: 1.2、38°C: 1.4、39°C: 1.6、40°C 以上: 1.8)

\* 3 全蛋白質必要量 = 全N必要量 × 6.25

全N必要量 = 全エネルギー必要量 ÷ 150

\* 4 25～55 歳 35ml/Kg/日

55～65 歳 30ml/Kg/日

65 歳以上 25ml/Kg/日